

圓覚寺 護持会会報

文 殊

令和3年 新春号



圓覚寺本尊「如意輪觀世音菩薩」

圓覚寺でお祀りしているご本尊は、「如意輪觀音（如意輪觀世音菩薩）」さまです。どこへでも自由に赴き、宝珠と宝輪を持って、人々の苦しみを除き、願いを叶えてくださる觀音様で、頭を右に傾け、どのように苦しむ人を救ったらよいか「思惟の相」を示しています。右の第二手に如意宝珠を、左の第三手に宝輪を持ち、衆生済度（苦しむ私たちを救わんとするお姿）を表しています。

令和3年 第10号

令和3年度の主な行持予定

- 1月 1日(金) 修証会 (元朝互礼会) 10時・11時 各戸一名
12日(火) 大般若法要 (大般若經六百卷の転読祈願法要)
2月 15日(月) 涅槃会 (お釈迦様ご命日)
3月 17日 (予定) 圓覚寺彼岸会 (春彼岸入りの日)
27日 (予定) 護持会決算・予算会
4月 29日(休) 和敬会花まつり (石原：洞玄寺)
5月 8日(土) 降誕会 (お釈迦様ご誕生祭)・圓覚寺花まつり
5月 梅花流全国奉詠大会 (中止)
7月 3日(土) 仏教文化大講演会 (厚生会館)
7日(火) 中丹梅花奉詠大会 (厚生会館)
日 子供禪の集い (大本山永平寺)
7月末～8月初旬 遠方棚経
7月25日 (日時調整中) 圓覚寺境内作務 (役員・会員他)
31日(土) 8:30 土師觀音盆供養
8月 1日 (予定) 土師墓地お墓掃除 (お檀家一軒に一人)
1日(日) 18:30 夜施餓鬼 (施食会連夜)
6日(金) 8:15 原爆追悼平和の鐘
8月 8日(日) 孟蘭盆大施食会 (並ニ、初盆大施食会)
9日(月) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
10日(火) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
11日(水) 土師宮町区・土師新町東区棚経
12日(木) 土師新町南区棚経
13日(金) 土師町区棚経
14日(土) 孟蘭盆 (お盆寺参り、午前中本堂開放)
16日(月) 丹波大文字送り火 (法要：厚生会館)
8月 21日 (日時調整中) 地藏盆 (土師新町南、地藏堂)
8月 22日 (日時調整中) 地藏盆 (遠方)
9月 20日 (予定) 圓覚寺彼岸会 (秋彼岸の入り)
9月 23日 (予定) 彼岸参り (遠方)
10月 17日 (予定) 仏教振興会研修旅行
11月 日 秋の西国三十三ヶ所巡拝
21日 (調整中) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
12月 8日(火) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
13日(月) 大すす払い
31日(金) 除夜の鐘・歳末調経
毎月 1日午前6時半 読経会 (朝のお勤め会) 1月を除く
毎月 第1・3金曜日 梅花講詠讃歌 (日時変)
毎月 第1・3火曜日 午前10時 寿会写経会 (日時変)

圓覚寺護持会役員紹介

Table with columns for Position (e.g., 総代・役員, 代表・総務, 墓地管理, 会計), Name (e.g., 伊東 高志, 高田 忠義), and Term (任期). Includes a list of 運営委員 (Operating Committee) members.

Table titled '令和3年度 年回表' (Annual Calendar for Reiwa 3) showing dates and events for each month, including 一周忌, 三回忌, etc.

【編集後記】
新年あけましておめでとうございます。コロナ禍で初めて迎える新年、皆様どの様にお過ごしでしょうか。
■発行所
圓覚寺護持会会報編集部
住所／京都府福知山市土師一七七七
電話／〇七七三(二二七) 四四四七

# 賀 春



住職 成田大航

年頭に当たり、新年のお慶びを申し上げます。予定では、昨夏はオリンピックが盛会のうちに終わり、世界中から観光客が訪れて活気のある一年でした。というはずでしたが、世界中の誰も想像だにできなかったコロナウイルスの大流行で苦しむ一年となってしまいました。昨年を一言で表すならば、間違えなく「コロナ禍」という言葉で表せるのではないのでしょうか。

ちようど一〇〇年前、スペイン風邪が世界中に大流行し、数千万人が亡くなったといえます。この「スペイン」とは名ばかりで、どこが発生源とはわからないそうです。この近代社会ではそこまでの犠牲者は出ておりませんが、経済を含めて世界中に大打撃を蒙っていることは間違えありません。ウイルスのやっかいなところは、人と人との接触によって広まるという点で、大勢集まる事も出来ない、楽しいおしゃべりも出来ない、握手も出来ない、一緒に食事も出来ない。まさにナイナイづくしの点にあるということでしょうか。

今は非常時という事で、全ての年中行事・宗教行事が中止・縮小されておりますが、コ

ロナが収束した後、遠ざかった人と人との縁が元通りになるのかどうか、一旦止めてしまった伝統行事はどうなるのか。亡き人を送る大切な「送りの儀式」がこれだけ軽んじられた時代はないと憂うるのであります。

## 菩 提 寺



最近、ご法事などでよく若い方にお話しするので、お檀家にとってお家の先祖を祭るお寺を「菩提寺」といいます。圓覚寺のお檀家にとって菩提寺は圓覚寺で、それぞれのお家の先祖の菩提を弔うお寺という意味で菩提寺であります。ですから菩提寺は当にお檀家のものであって、うちのお寺という誇りをもつて頂きたいと常々思っているところです。お寺の過去帳には四五〇年前からの先祖をお祀りしておりますし、お寺の使命は、お寺が続く限りお檀家の心の拠り所となっていた、たくという点であります。近年、都会を中心として檀家に属さないお家が増えております。十分な理解のないまま、檀家と菩提寺という関係を煩わしいもののように誤解されていることは残念に思います。これか



ら迎える次の時代に、寺檀（お寺側お檀家側）共に考え・造っていかねば先人の積み上げて下さった歴史が無くなるのではと考えております。そんな中、昨年末の運営委員会で初めて本堂・庫堂大屋根の大改修についての議題が上りました。大事業で、しかも、コロナ禍の中、容易なことではないことは重々承知をしておりますが、幸い良い総代様に恵まれ、我が身を後にしてお寺の将来を案じて頂いております。今後檀信徒の総意・ご理解に向けて進んでいきますよう切にお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。 合 掌

# 謹 賀 新 年



代表総代 伊 東 高 志

新年明けましておめでとうございます。令和三年の新年を迎え檀信徒の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、圓覚寺護持会の運営には大変なご理解、ご協力、ご支援を賜っていますことに厚く御礼申し上げます。

さて昨令和二年は新型コロナウイルスが世界中で蔓延し大変な事態に直面しました。我が国においてもこのウイルスによってかつて経験したこともないような経済、文化、宗教、スポーツその他の各業界に大きな打撃を受けたことは言うまでもありません。近辺の仏教界関連でも市仏教会や十三教区及び和教会の行持は殆どが中止や延期になりましたし、当圓覚寺での年中行事等も規模を縮小したり、内献での開催を余技なくされたりしました。残念ながら未だこのウイルスの終息は見えておりませんが、出来るだけ早い収束を心から願っている所です。

平成三十一年二月に圓覚寺本堂が京都府の暫定登録有形文化財に指定されたことはすでに報告をいたしました。その本堂も江戸時代の天保十五年に再々建されてからすでに百八十年

近くの歳月が経っており近年雨漏りや屋根裏の腐敗老朽化が激しくなっております。数年前に専門家による耐震性も含めた建物診断をしてもらい、その診断結果を基にいずれは近い内に改修の必要性ありとの判断をいたしました。

そこで総代会としては本堂改修の計画案を策定し、機会あれば檀家の皆様にはその旨お話しさせて頂き、「文殊」等での書面でもお知らせして来ました。三年ぐらい前からまず三社の専門業者による建物診断や改修見積もりをしてもらい、各社各々の見積もりの根拠や改修内容の説明等の話し合いをし、時には施工実績寺や工事中の現場を見せていただいたりして来ました。がそんな中で昨年の予期せぬコロナ大流行により、社会情勢が大きく変化し経済も不安定になり、計画の見直しも視野に再検討を余儀なくされましたが、情勢などを考慮した結果改修計画は継続しようとの結論を出しました。その上で総合的、俯瞰的に検討し施工会社の絞り込みができる段階にまでたどりつく事が出来たわけです。そこで昨年十一月にまず臨時運営委員会を開催し概略計画の説明をし、本年の一月中には運営委員会としての結論を出す予定にしております。

圓覚寺本堂はこの地域でも大きな建屋であり、その分改修費も多額になります。檀家各位様に御協力をお願いすることになり

ますが、他に方法がないのが現実で御座います。別図のように改修は基礎をコンクリートにし、床の古い木材の交換、屋根裏のはね木と木材板の交換補強、それに屋限瓦の交換等をする予定で、今後百年間建物を維持する為の工事であり圓覚寺にとっては百年に一度の大きな工事になり「令和の大改修工事」と言っても過言ではないようです。令和三年度から二年間で檀家の皆様方の御協力お願いし、工事期間は約一年間の予定で令和六年までの完成を予定している所です。この工事完成の暁には令和七年の十七年ぶりの秘仏文殊菩薩の御開帳の年に当たりますし、又圓覚寺にとって大行持ひとつである世代交代も、この本堂改修を契機に考えて欲しいとのお寺さんからの意向もありますので、いわゆる「晋山式」としてまたとないすばらしい機会であると捉えている次第です。

今年より檀家の皆様方には具体的に説明をさせて頂きますが、「自身の寺」「ご先祖の菩提寺」との自覚を持って頂くためにも檀家全員のご協力で何とかこの「令和の大改修工事」を達成したいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

なお、本堂改修箇所を図面を添付致しましたので、ご参照下さい。



江戸時代、大名墓は支配の正当性をもち、藩内に政治的安定性を保つ重要な石造物の一つでした。そのため江戸、国元の墓所（はかしよ・ぼしよ）に藩主の墓を必要として、大名は何らかの形の墓石を建立したのでした。

福知山藩主朽木家歴代（十三名）の墓所の多くが、江戸高輪（現東京都港区）の曹洞宗泉岳寺となつています。二代目の朽木植元は浄土宗の信仰で、江戸本所（同墨田区）の靈光寺。四代植治は信仰していた臨済宗で江戸麻布（同港区）の光琳寺です。

七代朽木鋪綱と十二代綱張の二人は福知山で逝去しました。そのため福知山市土師の曹洞宗円覚寺が墓所です。朽木家の位牌所は久昌寺・法鷲寺となつていました。

朽木家は美濃岩村藩主・松平



七代朽木鋪綱の墓（円覚寺）



朽木家眷属の墓（法鷲寺）

# 藩主や眷属（ほんぞく）の石塔

元 府立高校 教諭  
佛教大学非常勤講師

嵐 光 激

乗紀の子、玄綱が植治の養子となり五代目を継ぎます。六代には初代積昌の孫にあたる綱貞が就きます。円覚寺を墓所とする七代鋪綱は玄綱の子。「蘭学大名」と呼ばれる八代昌綱は綱貞の子。これ以後、玄綱系と綱貞系が交互に藩主に藩主となりました。

福知山の大名墓の例として鋪綱の墓を紹介しますと、門と境界石を巡らし、その中央に戒名を記した墓石を立て、その上に荘厳さを

示す笠石をのせている簡素なものです（この場合は笠塔婆とはいいません）。

萩藩主毛利家や鳥取藩主池田家の墓所を見学したことがあります。墓前に至る参道には多数の石燈籠が整然と並んでいました。大名の権力をまざまざと見せつけられた印象があります。朽木家の場合は江戸高輪の泉岳寺にある藩主の墓石を超えるものではなく、実に質素な一面があります。

藩主を頂点として、藩主の生母、藩主の正室、側室、藩主の子息女の墓石もあります。

例えば正室の墓が円覚寺に祀られています。藩主と同等の構えとなっています。

眷属（親族）の墓石を見ますと、側室では、写真正面左が五代目藩主玄綱の側室の一人でお竹きという人の墓石です。簡単な結果石に囲まれた中で祀られています。

その奥（中央）は、八代藩主昌綱の側室で、昌綱の娘の秋の産母で、秋出生後に逝去して祀られています。

右手前の少し小さい墓石は、五代藩主玄綱の次男豊次郎の墓石です。兄が七代藩主鋪綱です。豊次郎は享保十七年（一七三二）誕生で、わずか三年で逝去しました。

また玄綱の側室お竹きと豊次郎は二カ月の違いで逝去しています。亡くなってからはお竹きが幼年で逝去した豊次郎を守っているような印象を受ける墓石です。

江戸時代、福知山で祀られている大名墓とそれに関係する眷属の墓石の一例です。



【2020.9.23 両丹日日新聞記事より許可転載】

# 士師出身の名士、故佐藤太清画伯



ご両親の50回忌にて（S37.7月。圓覚寺本堂前）  
藤井覺章前住職とご兄弟。後列一番右が佐藤太清画伯

大河ドラマ「麒麟がくる」で多くの観光客が訪れる福知山城の入り口に「佐藤太清記念美術館」があります。文化勲章を受章され、福知山名誉市民でもある故佐藤太清画伯が土師のご出身であることを知らない方も多くおられるようになりました。ご生前、ご来福の時は、大勢のお弟子の方を連れてご両親の眠る土師のお墓をお参りされた事を思い出します。一昨年は奥様も亡くなられたこともあり、今回土師とのご縁を知って頂きたく、甥であるお檀家の佐藤修様の奥様に一文お願いを致しました。

## 叔父 佐藤太清画伯の事



佐藤太清画伯ご両親  
（父・平馬、母・満さの）

日本画家・佐藤太清（本名實）は、大正二年、福知山市土師で、父・平馬、母・満さの四男として誕生しました。父は土木技師で、当時は珍しいオートバイに乗っていたという裕福な家庭で生まれました。

ところが、父は太清が生まれる三ヶ月前に、そして母も出産後まもなく父の後を追うように他界されました。しかし、残された幼い子供達は、幸い離ればなれにされること無く、母方の祖母のもと、大阪で育てられました。その後、太清は養母の母乳を頂きながら幼児期を過ごしたといえます。

成長し土師の実家に戻ったのですが、一枚の木の葉を一日中写生するくらい絵心のあつた太清は、

画家への道を志したのでした。十八才で単身上京し、児玉希望画伯の門を叩き、内弟子として入門修業に励まれました。二十八才で結婚、現在の東京都板橋区に居を構えられました。その後は三十才で「かすみ綱」で文展初入選。続いて日展入選、特選入選と数々の受賞歴を重ねて日展会員となり、審査員、評議員、理事とキャリアを積み重ねられたのでした。六十七才で芸術院会員となり、勲三等瑞宝章の榮譽に浴し、日展理事に就任後七十五才で文化功労者、七十九才で文化勲章を受けられたのでした。

故郷福知山市からは名誉市民の称号を頂き、その功績を称えて福知山城公園内に「佐藤太清美術館」が建設されて現在に到ったことはご周知の通りであります。現在、館内には画伯の多くの作品が展示され、また毎年「佐藤太清賞」が公募されて現在も若い芸術家の育成に大きく貢献されています。

生後すぐにご両親に先立たれるという不幸な幼少期を過ごしながらも、温厚な性格と画家一筋に実

## 土地寄進のご報告



この度、神戸市、高橋宣光様より圓覚寺坂下（第二駐車場隣接地）の土地（73坪）の御寄進を頂きました。神戸からずっと通われて、野菜作りに励んでおられました。今後有効な利用法を総代さんと相談させて頂きたく思います。感謝を込めてご報告致します。

直に生きられた人生で、現代日本画壇の重鎮と呼ばれる程の功績を残し、平成六年に九十才で亡くなりました。菩提寺円覚寺の墓所で眠るご両親も、立派な人生を送られた我が子を誇りに思っておられるのではないのでしょうか。